

2024年4月1日

2024年度NHKグループ合同入局・入社式 会長講話



皆さん、はじめまして。会長の稲葉です。NHKへの入局、そして各団体への入社、誠におめでとうございます。今年度はNHKグループとして313人の新しい仲間を迎えることができました。皆さんを心から歓迎します。きょうは、皆さんがこれからNHKグループの職員・社員として仕事をするにあたって、ぜひ心に留めておいていただきたいことをお伝えしようと思います。ちょっと固い話になるかもしれませんが、どうか最後まで聞いて下さい。

まず、皆さんがNHKに入りたいと思った直観力は大したものだと思います。今後もその直観力を信じて人生を歩んでいただきたいものだと思います。なぜ、そう申し上げるか、ということからお話ししましょう。そもそもNHK—日本放送協会は会社でしょうか、お役所でしょうか、それとも何かの財団でしょうか。実は正式には、NHKは「放送法」という法律に基づき設立された法人なのです。株式会社でも、官庁でもありません。日本で一つしかない形態の法人です。その放送法第1条に放送の目的がはっきりと書かれています。簡単に要約しますと、放送の効用をあまねく国民に保障すること、表現の自由を確保すること、そして健全な民主主義の発達に資するようにすることと書いてあります。つまり民主主義がしっかり機能するように、表現の自由を最大限確保しつつ、人々の知る権利に応え、その判断や意思決定のよりどころとなる正確な情報を伝えていく、ということが求められています。言い換えれば、放送を通じて健全な

民主主義の発達に貢献することで、人々の平和で、持続可能な豊かな生活を支え、ひいては日本や世界を良くしていこうと書かれています。この法律は70年以上も前に制定されたものですが、現在世界中で民主主義が揺らぎ、平和が脅かされている状況をすでに見抜いており、大変新鮮です。NHKが目指すべき役割、そして皆さんがNHKグループの職員・社員として果たすべきことは、究極的には「健全な民主主義の発達に貢献することで、日本や世界中の、平和で、持続可能な豊かな生活を支えていく」ことに尽きるのです。すごい役割だと思いませんか。

加えてNHKという組織は、視聴者の皆さまからいただく受信料で支えられている日本でただ一つの公共放送です。このため放送法には、放送事業者のうちNHKにだけ課せられている規定もたくさん存在します。ざっとまとめると、日本全国であまねく放送が受信できるようにすること、豊かで良い番組を放送し文化水準の向上に寄与すること、全国放送だけではなく地域向けの放送も実施すること、放送の進歩発達に必要な調査研究を行うこと、国際放送を行うことなどです。それだけ、NHKに期待されている社会的な役割は大きいということになります。

こうしたNHKの社会的役割・使命を発揮することがとりわけ求められた最近の一例が、元日に発生した能登半島地震です。お正月休みの真っ最中でしたから、皆さんはご家族や友人と一緒に自宅で過ごしていたという人が多かったかもしれません。NHKの職員やスタッフの大多数もそうでした。しかし地震発生直後には、多くの職員が自発的にみずからの職場に駆けつけました。そこで自ら志願して報道クルーの一員になった人もいました。たまたま石川県に帰省していて、金沢放送局に向かった職員もいたそうです。それは職員やスタッフの誰もが、NHKに課せられた役割である、国民の命と暮らしを守るために自分のできることをしようと考えたからだと思います。

私は2月に地震報道の最前線となっていた輪島市や金沢放送局を視察しましたが、輪島市に駐在している現地スタッフから、自らも被災しながら、発災から3日間取材を続ける中で、救助活動や避難所運営も行った話を直接聞きました。また皆さんの先輩である若い職員が「やるべきことをやるんだ」という使命感を持って頑張っている姿も見ました。そして今回の一連の報道に関しても、多くの視聴者から「NHKは素晴らし

い活動をしてきている、NHKがあつて本当によかつた」という声がたくさん寄せられています。職員一人ひとりの頑張りが高く評価された結果だと思い、会長としてとても誇らしく思いました。

能登半島地震の対応のように、視聴者は、NHKに本当のこと、正確なことを伝えてほしいと心の底から思っています。人々が本当に知りたいと思っていることに正面から向き合う番組・コンテンツを作っていくことが求められているのです。それだけでなく視聴者は、日々の暮らしの中で、心が本当に豊かになるようなドラマやエンターテインメント、教養番組も見たいと思っています。私たちはその期待に応えなければなりません。赤ちゃんからお年寄りまで、すべての視聴者を満足させる番組・コンテンツを作り続けなければならないのです。それは、本当に大変なことだと思えます。しかしそれをやり遂げなければ、NHKの存在意義はないのです。

では、そのためにどうすればいいのか。それは、何ごととことんまで考え抜くということだと私は思います。正しい報道とは何か。心を豊かにするドラマとは何か。コンテンツの話に限りません。受信料制度とは何か。NHKに求められる技術とは何か。NHKとしてやるべきイベントとは何か。NHKが行っている業務すべてについて、とことん考え抜く必要があります。

私は以前、日本銀行という組織に勤めていました。若いときに、上司からよく言われた言葉があります。自分で仕上げた仕事をその上司に持っていくと、彼はそれを見る前に必ず「君はとことん考え抜いたかい」と言うのです。ですので、NHKの会長になった今でも、「とことん考え抜いたか」と日々自問自答しています。正解は簡単には見つからないと思いますが、皆さんにもぜひ、とことん考え抜くクセをつけてほしいと思います。何日も苦しんで考え抜いていると、未来が答えを示唆してくれることがあります。というのも、時代が変化して、それまで正解でないと思っていたことが突然、正解になることがあるからです。未来は私たちに新しい課題を突き付けますが、代わりに過去の問題の答えを一すべてではないにせよ、示してくれます。人類は未来に向け歩き続けることつまり過去の問題を片付け、新たな課題に立ち向かうことで進歩してきました。私は放送の仕事も全く同じだと思えます。

一方で、こうした役割を果たす上では、自分で自らを律する「自主自律」の精神がとても大切です。放送法にも、放送における表現の自由を確保するため、ほかの誰からも干渉されないという放送番組編集の自由が定められていますし、業務運営の基盤となる財源の面でも、NHKにだけ受信料制度という自主財源が認められているのはその一環です。しかしその裏返しとして、私たち自らが番組の内容などを自律的にチェックする、自ら規律を保っていくということが絶対に欠かせません。表現の自由が保障されているから何をしてもいい、ということにはならないのです。外から見て、好き勝手なことをやっているな、と思われたらNHKという組織への信頼はなくなってしまいます。つまり、表現の自由を確保しながら、適切な規律を確保していくというとても難しいミッションが求められているということなのです。皆さんがこれからさまざまな仕事に取り組む際に、決して忘れないでほしいポイントの一つです。

これまでお話ししてきたようにNHKは、非常に高い理想のもとで、相当難しいことに取り組んでいる組織です。ですから皆さんは、これから仕事をしていく中で判断に迷うこと、どうすればいいかと戸惑うことがきっとあるはずです。私は皆さんにとことん考え抜いてほしいといいましたが、しかし、あまり悩みすぎるのはよくありません。判断に迷う時には自分一人で思い悩まず、ぜひ上司や周りの同僚などの仲間に声をかけ、議論してみてください。先ほど述べた通り、NHKには高いレベルの自主性、自律性が求められますが、このような組織には、お互いの能力や得意分野を尊重しあいながら、活発な意見交換や合議を行うことでアイデアをブラッシュアップして、自主的にものごとを決定していく、そういう仕事の進め方がNHKに最もふさわしいと私は考えています。自主自律のもと自分たちでものごとを決めていかなければなりません、かといって独善になってはいけません。そうしたときに頼りになるのも仲間です。よく仲間と話し合い、互いに目配りをしてアドバイスしあうようにしたいと思います。

一生懸命仕事に取り組むと同時に、休む時はしっかり休むこと、家族・友人との時間や趣味の時間、自分の人生を豊かにする時間も大切です。仕事で高いパフォーマンスを発揮していただくためにも、決して無理をして働きすぎないようにしてください。皆さんに無理をさせない、そして上司や周囲がしっかり見守って支え合う。NHKはそういう組織でありたいと思っています。

とはいえ、仕事を始めたばかりの新人時代は、1つの業務をこなすだけでも時間も手間もかかるものです。さまざまな仕事に取り組む中で、失敗したり、ときには挫折を経験したりするはずで、落ち込んでしまったり、自信をなくしてしまったりすることもあるかもしれません。反省すべき点があるのなら反省しなければいけません、あまりくよくよしすぎてもいけません。私は失敗してもくよくよしないで未来に向けて歩き出すことを、人生の先輩として強くお勧めします。未来こそが二度と失敗しない知恵を授けてくれたり、失敗を新たな挑戦のチャンスにしてくれたりするからです。むしろ、皆さんには若さならではの積極果敢さで、さまざまなことにチャレンジすることを期待します。上司や先輩もきっと適切に手を差し伸べてくれるはずです。これから各職場で仕事に向き合い、さまざまな経験を通じて、NHKの使命達成のために自分に何ができるか考えながら、失敗を恐れず前向きに仕事に取り組んでほしいと思います。

NHKは1年後の2025年3月に、放送開始100年という大きな節目を迎えます。大正14年・1925年3月22日、NHKの前身である社団法人東京放送局が、東京・芝浦の仮放送所から日本で初めてのラジオ放送を開始して以来、テレビ・インターネットと情報を伝える手段は大きく変化しました。しかし、NHKが視聴者・国民の皆さまとともにあること、そして提供していく公共的価値の本質はまったく変わっていません。それは100年後も変わらないと思います。

先月には、インターネット活用業務をNHKの必須業務とする放送法の改正案が国会に提出されました。近く法案審議が行われることになるとと思いますが、法改正が実現すると、これまでの放送に加えて、インターネットでも番組などの配信を「必ず」行わなければならないということになります。そうなれば当然、NHKが担うべき役割はさらに大きくなりますし、それと同時に責任もいっそう重くなります。NHKが新たな歴史に入る節目に入局・入社した皆さんには、インターネットの必須業務化によってさらに業務が広がる可能性を担っていくという、重要な役割を果たしてもらおうこととなります。

また、ここNHKホール目の前では、新たに報道・情報発信の拠点となる情報棟の建設が大詰めを迎えています。情報棟はことしの秋に竣工し、放送100年となる来年

には一部の運用が始まる予定です。次の時代の報道を担う、重要な施設になると思います。

このようにNHKが大きな節目を迎えている中で、次の100年を担っていく皆さんには、NHKグループという舞台で大切な自分自身の人生を豊かに歩んでほしいと思っています。数ある企業の中から、皆さんがNHKを選んだ理由はさまざまかもしれませんが、NHKほどやりがいのある目的や使命が明確に定まっている組織はそう多くありません。皆さんはきょうから、その大切な役割をみずから担っていくこととなります。ぜひ、NHKに求められている大切な使命や役割を噛み締めながら、誇りと決意をもって、これからの仕事に取り組んでください。NHKは、皆さん一人ひとりの専門性を磨き、公共放送としての使命を追求するプロフェッショナルとして大切に育て、応援していきます。皆さん一人ひとりがNHKを舞台にして自分自身の人生を豊かに歩んでいくことができれば、それらを合わせた全体の力がNHKの公共的価値の発揮へとつながり、ひいては平和で、持続可能な豊かな社会が、日本や世界で、少しずつでも実現していくものと思っています。

皆さんの力に大いに期待しています。

(以上)